

2014年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科						
科目名	無機化学 I						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	必修科目(バイオサイエンスコース)/必修科目(食品生物資源コース)/必修科目(エネルギー・環境コース)						
担当者	西田 哲明						
授業の到達目標(シラバスから)	1. 周期表上における典型元素の位置と電子配置の関係を説明できる。 2. 簡単な分子の構造と化学的性質を説明できる。 3. 簡単な分子の化学構造(分子構造)を理解し、記述できる。 4. 上記1～3を踏まえて、代表的な各種固体物質の構造と物性・機能性を記述できる。						
日程と内容	4/7 導入講義：授業の概要と進め方、成績評価法について説明する。元素の起源など 4/14 原子の構成と原子モデル 4/21 電子の軌道と量子数、原子軌道 4/28 パウリの排他律、構成原理、フントの法則 5/12 元素の電子配置(電子構造)と周期表 5/19 元素の一般的性質と周期性 6/2 スレータの規則 6/9 イオン化エネルギーと電子親和力 6/16 イオン化エネルギーと電子親和力(中間試験含む) 6/23 電気陰性度 6/27 共有結合とオクテット則、分子軌道法の基礎 6/30 超原子価化合物、原子価結合法、混成軌道 7/7 結合の分極、双極子モーメント、赤外活性とラマン活性 7/14 分子軌道法その1 7/21 分子軌道法その2 7/28 定期試験						
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%			
	臨時試験	30%	部外評価	0%			
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%			
	課題	0%					
	演習	0%	計	100%			
授業到達目標の達成度	1. 周期表上における典型元素の位置と電子配置の関係を説明できるようになった。 2. 簡単な分子の構造と化学的性質を説明できるようになった。 3. 簡単な分子の化学構造(分子構造)を理解し、記述できるようになった。 4. 上記1～3を踏まえて、代表的な各種固体物質の構造と物性・機能性を記述できるようになった。						
反省点	全ての学生が授業に積極的に参加していた。レベルもかなり高く、教え甲斐があった。近畿大学でこの必修科目を担当することになって15年目であるが、今回初めて「全員合格」となった。						
来年度の計画	70名程度の必修科目ですが、「全員に」総合評価9以上を付けてもらえることを目標にしたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価で8.6(69名回答)となり、昨年の結果(8.2)を上回る結果となった。内訳は、37名(54%)が10点または9点を付けてくれた。これに8点以上の評価を加えると69名中、大多数の55名(80%)となった。個別の設問項目においては、多くの項目について5段階評価で4.3～4.4の評価点であったが、「授業内容が理解できない」と答えた学生が1名いた。授業が理解出来ないと興味が湧かないし、後ろ向きになってしまう。こういった学生には、何よりも本人の自覚が必要であろう。						
履修登録者数	69名	定期試験受験者数	69名	合格者数	69名	合格率	100%